

検 印

第 5 学年 組 道徳学習指導案

平成 23 年 2 月 25 日 (金) 第 5 校時
 在籍児童数 男子 16 名 女子 14 名 計 30 名
 指 導 者
 場 所 スタジオ

- 1 主題名 よりよい校風をめざして 内容項目 4－(6)
- 2 資料名 夢を奏で続けて「どんぐりピアノ」(宮代町教育委員会自作資料)
- 3 主題設定の理由

(1) ねらいとする道徳的価値について

本主題は高学年の内容項目 4－(6)「先生や学校の人々への敬愛を深め、みんなで協力し合いよりよい校風をつくる」ことをねらいにしている。この項目の「学校への敬愛」は低学年内容項目 4－(4)「先生を敬愛し、学校の人々に親しんで、学校や学級の生活を楽しくする」から始まり、中学年内容項目 4－(4)「先生や学校の人々を敬愛し、みんなで協力し合って楽しい学級をつくる」を経て、高学年の内容項目につながってきている。そして更に中学校では 4－(7)「学級や学校の一員としての自覚をもち、教師や学校の人々に敬愛の念を深め、協力してよりよい校風を樹立する」へと発展していく。

高学年の児童は、これまでの学校生活を通して自分達の学校に愛着を持っている。学校の良さにも気付き始め、会話の中に「うちの学校はね、・・・なんだよ。」と他に良さを紹介する様子も見かける。また、1年間、高学年という立場を経験してきたことで自分達がお手本を示していくという気持ちも高まりつつある。そんな児童の心の発達に併せて学校の良さを再確認させ、より学校を愛する気持ちを持たせたい。そう思えることが児童自身の幸せにも繋がる。さらに、協力して自分たちの力で学校をよりよいものにしていこうとする気持ちを育て最高学年を迎えさせることが大事であると考え、先輩方の築き上げてきた校風を大切にしながら、自分達もよい伝統を築いていく最高学年になるという気持ちをもたせられるよう指導していく。そして、このような学校生活を送ることができるのは、地域や学校に関わる方々の協力があるからこそであるということに気付かせ、深く感謝の気持ちが持てるよう、これまでよりも広く学校に目を向けさせられるようにしていく。

(2) 児童の実態について

本学級の児童は、子どもらしい純粋な心を持っている児童が多い。友達によさ、学校によさ、・・・この一年「よさを探し、認め、吸収しあって成長していこう」と取り組んできた。また、高学年として、「自分で考えて行動しよう」ということを日々の目標として過ごしてきた。それらに加え 3 学期は、「周りの人々に生かされている自分を意識して生活していこう」と課題を出したところである。それによって、「思いやり」「協力」「感謝」の気持ちが育つことを願っている。

児童に行った学校に対する意識調査は以下のものであった。(複数回答可)

<p>1 須賀小学校の自慢できることや好きなことはなんですか？</p> <p>《人》</p> <p>○話したことがなくても仲良く遊んでくれる友達がいる 6名</p> <p>○優しく元気で面白い友達がいる 4名</p> <p>○寒い日にも負けない元気な子が多い 5名</p> <p>○面白い先生がいる 1名</p> <p>○一人一人みんな違った個性を持っている 1名</p> <p>○みんなが協力して動ける 2名</p> <p>《もの》</p> <p>○校庭の真ん中で僕らをいつも見守ってくれる楓の木がある・昔に植えられみんなが大切にしてきた楓の木がある・大きくて季節によって葉の色を変える楓の木の美しさが見える 20名</p> <p>《こと》</p> <p>○伝統のソーラン節 2名</p> <p>○伝統の鼓笛 2名</p>
--

2 これから先、あなたは須賀小学校をどんな学校にしたいですか？

- あいさつがきちんとできる学校 2名
- みんなが自然を大切にし、自然に囲まれた学校 2名
- みんなが仲良しで笑顔あふれる学校・けんかのない学校 20名
- 他学年であってもみんなが仲良くできる学校 3名
- 優しさがいっぱい为学校 4名
- みんなが協力できる学校 1名
- みんなが信頼し合える学校 1名
- 下級生の世話をできる責任感のある高学年がいっぱい为学校 4名
- みんなが自ら進んでよい行いをする学校 1名
- 須賀小の伝統を守っていく学校 1名

児童はそれぞれが学校のよさに気付いている。また、これからどのような学校にしていきたいかという思いや理想も膨らんでいる。本時のねらいの「伝統」「協力」「感謝」をうっすらと感じている児童も数名おり、4月から最高学年として自分達が・・という意識も持ち始めている。自慢できることは圧倒的に「楓の木」が多かったが、本時で何かを感じ、自慢できることが「自分達の行いによるもの」に変化させられることを願っている。

児童は、4月に高学年となって、これまでに「高学年として」という話を聞く機会が多くあった。そしてすぐ上の先輩である6年生の行動をよく見ながら生活してきた。自分が6年生になったらああしたい、こうしたい、こんなことができるようになりたいと思いを抱き、「須賀小の伝統です。」という話を聞くことで、自分達も大切に守っていくためにしっかり取り組んでいこうと意欲が高まってきた。自分で考えて友達のため、学級のため、学校のために動けるようになりつつある。また、してもらえることが当たり前でないことに気が付き始め、「人」「もの」「こと」に対して感謝の気持ちがもてるようになってきた。「教室で学ばせてもらえることはありがたいこと。だからしっかり掃除で感謝の気持ちをお返しする。」「寒い中いつも僕たちのために安全パトロールをして下さりありがとうございます。」という気持ちも表れるようになってきた。これらの気持ちをより強く感じ、深められるような時間にしたい。そして、立派な行いをされた先輩方を尊敬し、学校を愛して来られた代々の先輩方の気持ちに感動し、そんな先輩方がいる須賀小学校に誇りを持てるように指導の工夫を図りたい。自分達の須賀小学校を愛する伝統を引き継げる一人になって欲しいと願っている。

そのために、本時の価値が「協力」だけにならぬよう、「1/3しかお金が集まらなかったのにみんなが一生懸命活動し続けたのはなぜか？」という発問では、「みんなでピアノで歌いたい」という学校全体の強い願いを叶えるためであるということを確認させる。また、「地域の方が協力して下さった理由」を問うことで子ども達の一生懸命さを地域の方々の目に映る姿で表して、そこから子ども達のピアノへの思いを明確にしていく。みんなで心をつなげて歌う伝統は60年前に始まったことに感動させたい。また、地域の方々が2/3の資金を出して下さったことを知り、「学校にとっても関心をもって下さっていること」、「子どもたちの思いを大切に下さっていること」、「学校は地域全体に開かれ、地域全体に包まれている所であったこと」「その気持ちは地域の方々が学校を愛して下さる気持ちによるものであった」ということを感じさせられるようにする。そして、「見つめる」の段階で「どんぐりピアノと須賀小の先輩方は最高学年になるみなさんにどのようなことを伝えてくれましたか。」と問うことで、本時の価値である「先輩方・地域の方々を敬愛し伝統を築いていこうとする心情」にまで迫らせたい。

(3) 資料について

本資料は須賀小学校に残る「どんぐりピアノ」を題材に、それが購入されるまでの全児童や学校、学校を取り巻く保護者や地域の方々の思いや努力について、当時の新聞記事や学校沿革史、地域の方々のお話をもとに作成されている。昭和24年の戦後間もない時期、まだ人々が毎日の生活を送ることが大変だった時代、十分な施設や設備が整っていない小学校で「音楽」の時間にピアノを使って授業をするのは夢のまた夢であった。しかし、高額ではあるが、子どもと地域が一つになり、協力して学校のため、子どもたちのためにピアノを購入しようとする現実があった。

着任した5年前、全校が力を注ぎ音楽会を大々的に行っていることに驚いた。体育館のステージの上の壁画を見てもこれまでの勤務校にはない音楽会への思いが伝わってきた。そのときはただ漠然とすごいと思っていたが、そこには遠い昔から今まで繋がってきた人々の思いがあり、その思いが今もなお校内音楽会に趣を加えているような気がする。校内音楽会が「普通とは違う」と感じさせられてきたその理由がここにあったことを今強く実感している。

資料には、「須賀小学校の子ども達」が主人公として描かれている。全児童が思いを一つにし、協力しながらピアノ購入のために、ドングリを集め、ヒマワリを育て、イナゴをとり・・・と活動する。子ども達は活動によって得たお金を貯金通帳に「ピアノ様」と書いて積み立てていく。だが、ピアノ購入金額には程遠い。そんな中、活動は家庭や地域に広がり、ピアノ購入はやがて村全体の願いとなっていく。そして、当時の生活からは「学校にピアノ」など考えられない時代であったが、どの学校よりも早く「ピアノ」が学校に導入された。学校は家庭や地域の方々を招き、「ピアノありがとうの感謝音楽会」を開いた。また、このことは、当時の新聞各社から報道され、大きな反響を呼んだ。子ども達の思いから始まった活動が多くの方々を巻き込み、それが須賀小学校の宝となり、学校をみんなで大切にしていくという思いが伝統となっていたことに気付かせ、この素敵な思いの伝統を大切にさせていきたい。同時に須賀小学校の教育目標「力いっぱい」の伝統もこのどんぐりピアノに関わった当時の児童の姿から伺えることにもふれ、素敵な校風はずっと前から続いていることを実感させたい。

4 研修主題とのかかわりと他の教育活動等との関連

研修主題

「生きる力」をはぐくむ小中一貫教育の推進

～人とのかかわりを大切にし、共によりよく生きようとする子どもの育成～

(1) 研修主題とのかかわり

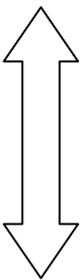
〈小中一貫教育の視点から〉

「しっかりきこう」を意識し、友達の意見と自分の考えや気持ちは同じか、違うかをはっきりさせながら心の学びを進める。初めは違った意見を持っていても、友達の意見を聞いて納得し、考えを深め、よりよい価値に迫っていきけるような時間にしていく。

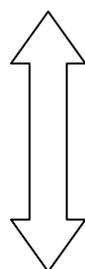
〈「人とのかかわりを大切にする」視点から〉

本時では「感謝する気持ち」をはぐくんでいく観点から、自分は周りの方々を支えられて生きていることを強く実感させたい。どんぐりピアノ購入時の地域の方々の協力・子ども達を思う心にふれることで、自分たちが今、同じように地域の方々に支えられていることを思い重ねられるようにし、より感謝の気持ちを深めさせたい。「協力していこうとする心」をはぐくんでいく観点から、みんなで達成したときの喜びはどんなに大きいものであるかを感じさせたい。共通の目標に向かって共に取り組み叶った時の喜びの共有は何とも言えないものであることを共感させたい。そして最後に、直接は繋がっていない須賀小学校の先輩方の行動から学んだこと、先輩方の心に感動させられたこと・誇りを持てるようになったことを大切にして、人との関わりの中で人は心豊かに成長していくことを実感させたい。

(2) 他の教育活動との関連

事前指導	道徳の時間	事後指導
<p>(4月 学級開き)</p> <ul style="list-style-type: none"> ○学級のめあての確認 <ul style="list-style-type: none"> ・それぞれが相手のよさをみて、信頼関係を築き、あたためていく。 ○高学年としての自覚の確認 <ul style="list-style-type: none"> ・須賀小学校をよくしていくために委員会活動等進んで行動する。 	<p>(2月)</p> <p>資料名 「どんぐり ピアノ」</p> <p>どんぐりピアノを買うために協力し合って努力した須賀小学校の人への敬愛を深め、自分達もよりよい須賀小学校の伝統を築いていこうとする心情を育てる。</p>	<p>(3月)</p> <ul style="list-style-type: none"> ○「心のノート」を活用して <ul style="list-style-type: none"> ・「心のノート」P-98～99 ～校風をつくるのはわたしたち～を読み須賀小学校らしさを考え、自分達で更に学校をよくしていこうという思いをもつ。
<p>(学校生活を通じて)</p> <ul style="list-style-type: none"> ○よいこと探し・日記 <ul style="list-style-type: none"> ・友達のよさを探して日記に記し、みんなで認め合うことで絆を深め、協力していく心を強める。 		<p>(3月 学級活動・行事 学校生活を通じて)</p> <ul style="list-style-type: none"> ○6年生を送る会 <ul style="list-style-type: none"> ・お世話になった6年生に感謝の気持ちを込めて会を開く計画を立てる。 ・先頭に立って下級生をまとめ、感謝の思いを色紙にまとめる。 ・当日の運営を責任持って行う。 ・伝統の鼓笛を心を込めて演奏する。
<p>(7月8月和戸祭り・町民祭り)</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ソーラン節の発表 <ul style="list-style-type: none"> ・須賀小の伝統であるソーラン節を地域に向けて発表する。 		
<p>(9月 学校行事)</p> <ul style="list-style-type: none"> ○運動会 <ul style="list-style-type: none"> ・組体操や全校競技等、以前から行われている種目に参加する。 		
<p>(10月 学校行事)</p> <ul style="list-style-type: none"> ○かえで祭り <ul style="list-style-type: none"> ・かえでキッズグループの異学年交流を通して須賀小の友 		

達と仲良くふれ合う。
(1 1月 町民文化祭) ○ソーラン節の発表 ・須賀小の伝統であるソーラン節を地域に向けて発表する。
(1 2～1月) ○鼓笛の練習 ・6年生から鼓笛演奏を教えてもらうことで、6年生への感謝の気持ちを深め、この伝統を引き継ぐ気持ちを新たにす。



(3月 学級活動) ○自分の成長 ・この一年の成長を見つめ、4月から最高学年として頑張っていく意欲を持つ。

家庭との連携
学級通信等で学級の児童の取り組み、成長、高学年としての自覚の表れ等について知らせる。家庭でも成長を励ましていただき、児童の活動意欲を高めていただく。

5 本時の学習活動

(1) ねらい

どんぐりピアノを買うために協力し合って努力した須賀小学校の人への敬愛を深め、自分達もよりよい須賀小学校の伝統を築いていこうとする心情を育てる。

(2) 展開

	学習活動 ◎主な発問	予想される児童の反応	・指導上の留意点 ☆◇評価【評価方法】	時間 資料
導 入	1 須賀小の音楽会を想起させる。 ◎「1 1月に行われた音楽会はどうでしたか。」	<ul style="list-style-type: none"> 緊張した。 一生懸命みんなと合わせた。 力を出し切って気持ちよかった。 	<ul style="list-style-type: none"> 普段にない空気を感じて緊張感もてたことを思い出させ、この音楽会は「どんぐりピアノ」と結びつけていることに興味を持たせる。 (・始まりは60年前 ・地域の方々に「ありがとう」を伝える音楽会から今に) 	3分 映像
展 開	2 資料について条件・状況を知り、教師の範読を聞き、感想をもつ。 3 感想をもとに話し合いの柱を立てる。	<p>登場人物： 須賀小学校の児童 教師 地域の人々</p> <p>条件・状況： ピアノへのあこがれを抱き、そのピアノの伴奏で歌うことを夢見ている子ども達はどんぐりを拾ったり、ひまわりの種を蒔いたりして「ピアノ様」の通帳にお金を貯めていく。お金は1/3にしかならなかったが地域の方々の協力でピアノが購入できる。そして、「ピアノありがとうの感謝音楽会」を開き、その音楽会がずっと今に続いている。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 1度の範読で深く心に響かせるよう、情況把握をしっかり行う。 (・当時の時代背景 ・ピアノというものがどんなに高価なものであったか ・「ピアノに合わせて歌いたい」という強い思い ・素敵な先輩達がいたこと) ・児童の感想を大切に柱立てしていく。 ☆心に残った場面を見つけ、話し合う意欲を高めることができたか。 <li style="text-align: right;">【観察・発表】 	12分 当時の写真等

展 開	深 め る	<p>4 当時の須賀小の子ども達の気持ちになって話し合う。</p> <p>(1) 子ども達は15万円もする絵本の「ピアノ」を見て、どんなことを思っているのでしょうか。</p> <p>④ ピアノを使ってどんなことがしたいのでしょうか？</p> <p>(2) 「ピアノ様」の通帳をのぞき込みながら、子ども達はどんなことを思ったでしょう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・貯まっていく通帳を見て。 <ul style="list-style-type: none"> ・目標の3分の1にもなっていないことを知って。 <p>④ 何であきらめずに頑張れたのでしょうか。</p> <p>④ どうして村の方々は協力して下さったのでしょうか。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・高いな。 ・無理かもしれないな。 ・欲しいな。 ・買いたいな。 ・学校にピアノがあったら素敵だろうな。 <ul style="list-style-type: none"> ・音を聞いてみたいな。 ・ピアノに合わせてみんなで歌ってみたい。 ・自分達の歌声とピアノの音が重なったらどんな風に聞こえるのかを知りたい。 ・音楽会を開きたい。 <ul style="list-style-type: none"> ・どれくらい貯まっているか楽しみだな。 ・貯まってきて嬉しい。 ・少しずつ増えてきているな。 ・もう少しで買えるかな。 ・もっと貯めなくちゃ。 ・この調子で頑張ろう。 <ul style="list-style-type: none"> ・まだまだ足りない。 ・こんなに頑張っても全然足りないのか。 ・あとどれぐらいかかるだろう。 ・卒業までに無理かもしれないな。 <ul style="list-style-type: none"> ・ピアノの音を聞いてみたいから。 ・ピアノの伴奏でどうしてもみんなで歌いたいから。 ・須賀小にピアノが来て欲しいから。 ・卒業してしまっても後輩達が歌えるのなら。 ・地域の方々も協力してくださっているから。 <ul style="list-style-type: none"> ・子ども達のピアノで歌いたいという強い気持ちを感じたから。 ・みんなで力を合わせて須賀小学校にピアノを買おうと頑張っている姿から気持ちが伝わってきたから。 	<p>20分</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ピアノの伴奏で歌いたくて仕方ない子ども達の気持ちを確認する。 <ul style="list-style-type: none"> ・絵本でしか見たことがないピアノにあこがれ、ピアノを使ってどんなことをしたいかを考えさせる。そこから、須賀小学校の児童がピアノ購入へ夢を膨らませていたことを感じさせる。 <ul style="list-style-type: none"> ・頭をぶつけるようにしながら、通帳を覗き込んでいる様子をイメージさせ、児童の心情に迫れるようにする。 <ul style="list-style-type: none"> ・不安な気持ちと諦めない気持ちの葛藤に迫り、なぜ諦めずに頑張れたのかを考えることで、当時の児童の音楽やピアノに対する強い思いを明確にする。 ・暑い中、汗まみれになって頑張った様子や、暗くなってもどんぐりを拾い続けた一生懸命な様子を押さえ、現在の学校教育目標「力いっぱい」とも繋がりがあことに気付けるようにさせておく。 <p>貯金通帳</p>

展	深める	(3) 夢にまで見た伴奏で、歌を歌う子ども達はどんなことを思ったでしょう。	<ul style="list-style-type: none"> ・すごい。 ・嬉しい。 ・きれいな音だな。 ・頑張ってきてよかった。 ・みんなで協力して頑張ったから買うことができた。 ・みんなで一緒に歌いたい。 ・みんなに聴いて欲しい。 ・協力してくださった方々に聴いてもらいたい。 ・応援して下さった方々に聴いていただくために音楽会を開きたい。 ・このピアノは須賀小の宝だから、大切にしていこう。 	<ul style="list-style-type: none"> ・いろいろな方々の協力によってピアノ購入が実現でき、当時の子ども達が仲間や地域の方々への敬愛や感謝の気持ちをもったことに気付けるようにする。 <p>☆当時の児童の心情に共感し、先輩方の素晴らしさを感じることで、須賀小学校の校風を築き上げてきた先輩方への敬愛を深めることができたか。</p> <p>【観察・発表】</p>	
	開	見つける	<p>5 どんぐりピアノと先輩方に教わったことを見つめ直し、自分のこれからにつなげる気持ちをもつ。</p> <p>◎どんぐりピアノと須賀小の先輩方は最高学年になるみなさんにどのようなことを伝えてくれましたか。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・須賀小の伝統、素晴らしい歌声を大切にしていって欲しいということ。 ・自分達で学校や自分達のために頑張ることの大切さ。 ・学校を思う気持ち。 ・みんなで協力することの大切さ。 ・地域のみなさんへの感謝。 ・何に対しても精一杯取り組んでいくこと。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「深める」段階で感じ取った当時の児童のたくさんのおよさが須賀小学校の「校風」をつくり上げてきていることに気付かせ、本時の道徳的価値を確かなものにする。 ・須賀小の伝統の音楽をはじめ、先輩方が残して下さった心の伝統をしっかりと見つめ引き継いでいこうとする思いがもてるようにする。 <p>☆よりよい校風をつくろうとする意欲を高めることができたか。【観察・発表】</p>
終末	あたたためる	<p>6 校長先生からの講話を聞く。</p> <hr/> <p>7 どんぐりピアノの伴奏で校歌を歌う。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・先輩方のその他の行いも知り、一層、尊敬・敬愛の念を深め、後に続こうという思いをもつ。 ・当時の方々の感動を想像し、先輩方が築いてきて下さった須賀小・中の歌に誇りをもつ。 ・今日知った60年前に始まった伝統、自分達が大切にしてきた楓の木を想い、これから自分達も伝統をつくり出していくという思いをもつ。 	<p>◇校長先生の話聞き、須賀小学校を誇りに思い愛する気持ちを深め、須賀小学校のために自分達がしっかり行動していこうという思いを感じさせることができたか。【観察】</p> <p>◇どんぐりピアノ・楓の木と自分達が一体になって校歌を歌うことによって、須賀小にいる幸せ、みんなと歌える幸せ、そしてこれから・・・という思いを持たせることができたか。</p> <p>【観察】</p>	7分

6 評価の観点

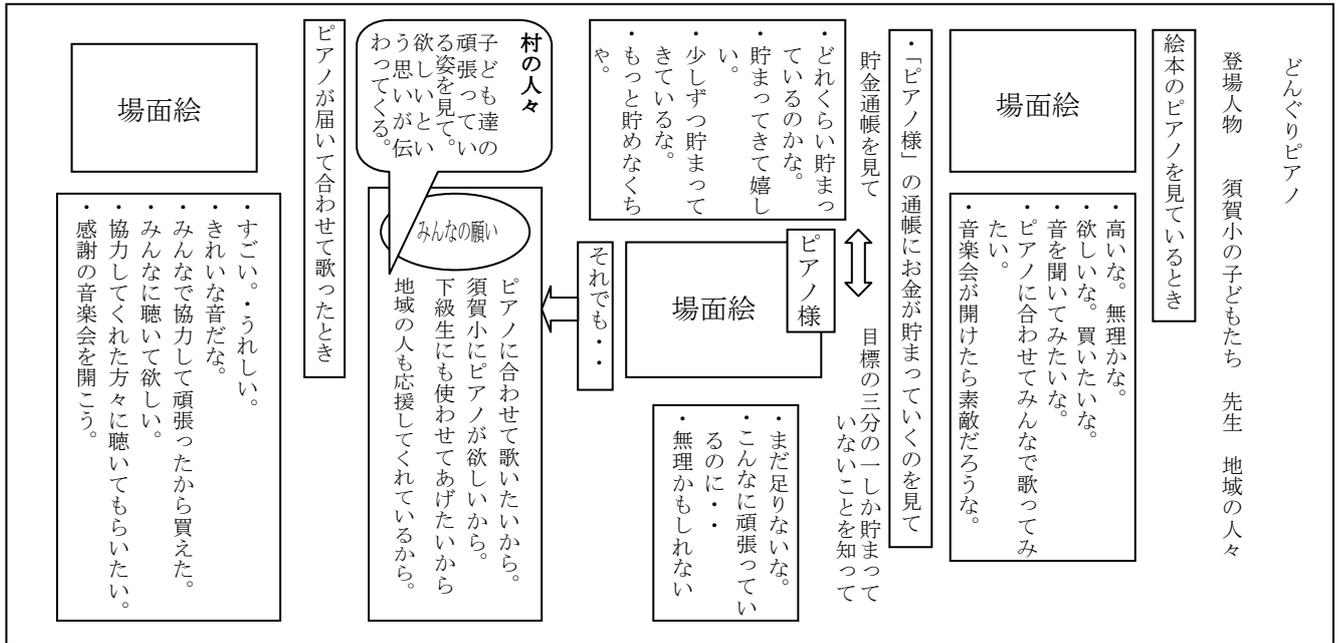
〈児童サイド〉

- ・資料の範読を聞き、一人一人が心に残った場面をもち、話し合う意欲を高めることができたか。
- ・当時の児童の心情に共感し考えることで須賀小学校の先輩への敬愛を深め、みんなでよりよい校風を築き上げていこうという思いがもてたか。

〈教師サイド〉

- ・ねらいとする価値が的確に児童に伝わっていたか。
- ・発問や切り返しによって、当時の児童のより深い心情に迫らせることができたか。
- ・適切な講話や雰囲気作りによって、これからの実践意欲を高めさせることができたか。

7 板書計画



8 資料分析

